



茅野市中央公民館 ☎72-3266
茅野市宮川 4 5 5 2-2

Chino Cultural Community 茅野市公民館報

No.696 発行：長野県茅野市中央公民館 編集：広報専門委員会 印刷：(株)中央企画 発行日：2025年(令和7年)8月1日



ゆきどけ.....	1
特集「戦争を振り返って」.....	2~4
平和展・リレーコンサート報告.....	5
芸術祭募集・どんぼん踊り講習会.....	6
講座受講生募集.....	7
地域づくり講座・諏訪ことば.....	8

戦後 80 年 平和への祈りを込めて（特集 2 ページから）



過日街中で、ふと見覚えのある面影が目に飛び込み、思わず昔のあだ名で声をかけたら、歩を止めてくれた。それは中学の同級生、話をするのは何年振りのことだろう。懐かしさもあり、少しの間お互いの近況や友人たちの情報交換をして、その場を離れた。

また別の日、全く交流がなかった同年生から、その身内を通じて「親父が中高時代を共に過ごしたM君の連絡先を教えてほしいと頼まれた」と息子からLINEがあった。依頼者とM君の名前を見た瞬間、正に驚嘆。こんなことを頼まれたら断ることなんかできない。でもさすがに50年近く会っていない彼の消息を、どのように調べたものか。彼と同じ地元の同級生に尋ねようか、でもその同級生の連絡先探しから始めなくてはならないし、かつて定期的に発刊されていた同窓会名簿で当たろうにも、近年、個人情報扱いが厳しくなって、もう名簿もない。でも『窮すれば通ず』、高校同年組グループLINEがあった。意を決して、誰かM君の所在を知らないか投げてみた。わずか二十数名の中の一人から、かつて名刺交換したと、情報が送られてきた。M君の会社の名刺、WEB上で確認し、彼はまだその会社にいるに違いないと確信し、メールを送ったところ、ピングー！長い時を経て交流が再開された。もちろん依頼主に情報を提供できたのは、言うまでもない。

個人情報管理が厳しくなって、長年隔たりのあった旧知を探るのは困難だが、ITによって現在の知己間ネットワークを形成でき、そこからは情報が得られる社会である。そうはいっても人間同士、顔と顔を合わせてのコミュニケーションがベスト。盆休みなどで旧友が帰省したら顔を見に行こう。

（戸田 茂生）

河西 允人さん Profile

昭和6(1931)年5月、茅野市豊平上古田に生まれる。戦後は教職の道に進み、定年後は茅野市議会議員を1期務める。現在も茅野市高齢者大学の^{りよう}俚謡講座の講師を務めていただいている。



太平洋戦争終結から今年で80年を迎えます。終戦の日を当時14歳で経験した、市内に住む河西允人さんに、当時の様子を語っていただきました。

Piece of Peace

平和を祈る

特集 戦争を振り返って

昭和13年に当時の豊平尋常高等小学校に入学してね。当時は湖東・米沢・北山・豊平で、四か村小学校運動会って合同でやってたよ。豊平がいちばん校庭が広かったで、豊平小でやった。北山でやったときも一度あったかな。

勤労奉仕の時代だで、麦刈りだ稲刈りだ草刈りだで、校庭も芋を植えたりね。皆農家の子だもんで、上手にやってたけどね。

小学校を卒業したあとは、岡谷中学(今の岡谷南高校)へ通ったよ。諏訪湖っぱたで眺めが良くてね。よくドロガイをとって食べたりしたよ。冬は諏訪湖が凍るで、戦後オリンピックに出場した五味芳保とか竹村晋吉なんかはサボってスケートばかりしていたよ。

学徒動員

学徒動員の頃は、自分は鉄砲を運ぶことをやったよ。今の岡谷市役所があるところには陸軍の兵器廠(※)があつて、レイクウオークがあるところには塚間倉庫っていうのがあつた。



▲「これは全部自分の歯なんだ」と河西さん

それで旧岡谷小学校のところに穴を掘ってあつてね。倉庫から鉄砲をトラックに積んで隠しに行った。岡谷北部中のところには飛行機の工場もあつて、部品を磨いたりもしたな。

休憩なんて昼飯を食べるときだけ。時報のサイレンなんてないでね。風鈴でチリンチリンと鳴らして30分くらい。あとは、トイレだけは許してもらえたで、

「河西、便所に行きたいです」というと、班長が「よし、行ってこい」と。仕事が終わって帰るときは必ず身体検査してね。冬は帰る頃にはもう真つ暗。勉強なんてなんにもしてないけど、毎月4円50銭の授業料は払ってた。

あおぐ先輩 予科練の 七つボタンは 桜にいきり

10割死ぬとわかってた

中学生のときに、予科練を受験したんだ。志願なんてしてないよ。学校ごとに何十人って割り当てがあつてね。学校で授業なんてしてないから、働いているところに先生が来て、

「河西君、受けたらどうだい」と。そう言われたら、もうハイとしか言えない。試験を受ける前には、色々な訓練を受けさせられてね。岡谷の下浜に海洋道場があつて、海軍の訓練を半月くらいしたのを覚えてる。夜は電気の灯りでモールス信号とかの練習もしたよ。テキカンミユとかね。船上で寝る訓練だつていつて、毎晩ハンモックで寝かされたけど、これが寝られねえ。それで非常呼集訓練だつて真夜中に突然起こさ

れたりさ。

罰だつて走らされたり、軍隊ことばが荒くて、怖かつた。飯もぜんぜん足りないで、まあ痩せた痩せた。それで半月終わつたらまた工場に働きに戻つて、こっちの方が楽だと思つたね。予科練の試験は筆記なんてなくて、面接で口頭試問だけ。

それで、合格通知がきてね。入隊するから、いついつどこに集合つていう通知もあつて。兵隊さんが岡谷駅に迎えに来て、連れて行かれることになった。

両親とは家の前で別れた。お袋は泣いていた。親父には、「人に負けるなよ」と言われたな。

岡谷駅では、仲間が見送りに来てくれてね。みんな

で歌を歌つて送つてくれた。

あおぐ先輩 予科練の
七つボタンは 桜にいきり
今日も飛ぶ飛ぶ 霞ヶ浦にや
でかい希望の 雲が湧く

行つたら10割死ぬとわかってた。2つ上の先輩は沖縄で死んだ。3つばか上のしょう（人たち）は、満州へ行つて帰らなかつた。

ところがね。兵隊さんに連れられて行つたら、もう宿舎がいっぱいでね。帰らされたんだよ。

よ かん 予科練とは

「海軍飛行予科練習生」の略で、第1次世界大戦以降、旧海軍がより若いうちから基礎訓練を行って熟練の搭乗員を多く育てようと、昭和5年から教育を開始しました。

終戦までの約15年間で約24万人が入隊し、うち約2万4千人が飛行練習生過程を経て戦地へ赴きました。戦死者は8割の1万9千人にのぼり、特攻隊として命を散らした方も多くいました。

それが昭和19年の終わりだね。それで帰ってきた。あとで親戚のおばさんに教えてもらったけど、お袋は泣いてたつて。宿舎が空いたらまた行くはずだつたけど、そのまま終戦になった。

終戦の日

8月15日は、お昼から大事な放送があるからつて、午前中に岡谷の兵器廠に皆集めさせられて、それで「耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍び…」というのを聞いた。

放送が終わると、兵隊さんが、「今日をもつて戦争は終わった」と。

「負けた」とは言わなんだな。そのときは勝つて終わつたんだと思つた。でも、ひとりの兵隊さんが涙を流してたのを、今でもよく覚えてる。

次の日は、学校は休みだつたな。工場もそれきり行

かなかった。

学校が始まってからは、教科書は墨を磨つて黒塗りにしたよ。先生から、何頁の何行目を塗りなさいと言われて。

戦争が終わつて

親父がね、どこで覚えてきただか、

「ワレは学校の先生になつて、平和つちゅうことを勉強してこい」と。それで、先輩が米沢で先生をしていたので、話を聞きに行つた。同じところなら間違いないだろうと山梨大学に進んで、卒業後はずっと中学校の先生をした。飛行機の工場があつた岡谷北部中も10年くらいいたな。ここで働いていたなんて当時の話は、子どもたちにはしなかつたけどね。

幼少期の思い出

おやつと言えは何だったかな。お袋がよく氷餅こおりもちを作

つてくれたな。

瓶に入れた米をついて、食紅か何かで色を付けてさ。「ワレも手伝え」というので、のし棒で平らにならしたら、お袋が包丁で四角く切ってね。お蚕かごに乗せて乾かして…。

ハナビク(※2)に入れて畑や田んぼに行つてさ。「ワレはその辺で遊んでろ」って言うんで、カマキリだのカエルだのを捕まえたり、眠くなったら木の下にムシ口を敷いて昼寝をしてね。小学校のときには、先生

西暦	年号	主なできごと	
1931	昭和 6	満州事変	河西さん誕生
1932	昭和 7	五・一五事件	
1936	昭和 11	二・二六事件	
1937	昭和 12	盧溝橋事件、日中戦争始まる	
1938	昭和 13	国家総動員法、学徒勤労動員 満州開拓青少年義勇軍の募集開始	河西さん旧豊平尋常高等小入学
1939	昭和 14	ドイツがポーランド侵攻、第2次 世界大戦始まる	
1941	昭和 16	日本がハワイ真珠湾攻撃、太平洋 戦争始まる	国民学校令により豊平尋常小→豊平国民学校
1942	昭和 17	アメリカ軍による日本本土初空襲	
1943	昭和 18	学徒出陣	
1944	昭和 19	特攻隊による体当たり攻撃始まる	河西さん旧岡谷中入学
1945	昭和 20	広島・長崎に原爆投下・日本ポツ ダム宣言受諾	

が「明日は柳川^{やながわ}に行くで、替えのパンツを持って来いよ」と。それで水浴びしたりね。今じゃ考えられないよね。

そういえば、満州の義勇軍(※3)にどうだつて誘われたこともあったね。でも親父が、允人は体も小せえしつて言つて断つた。そのときは、自分
は行きたいと思つただけだね。

その頃はまだ兵隊さんはいい職業だと思つていたからね。三食^{まか}賄^{まか}つてくれるし、自分は次男だから、口減らしになるなど。

「日参^{にっさん}」つていうのもあつたね。上社まで必勝祈願に参拜に行くの。当番のお札があつて、参拜に行つたら次の家
にまわす。ひと月もしないうちにまた当番が回つてきてたな。働けるしうは百姓やつ
てるで、子どもとか、うちはじいさん^{じいさん}と行つたな。上社の前にお店があつて、そこに寄
つてくれたのを覚えてるよ。

12月8日が(太平洋)戦争の始まった日だで、毎月8日は下古田の十五社にお参りに

も行つてたよ。

学校では、東京の方に向つて、宮城^{みやぎ}遥拜^{じょうはい}つていうのをやつたな。

校庭^{こうてい}に奉安殿^{ほうあんでん}があつて、ご真影^{まゆみかげ}や教育勅語^{きょういくしよくご}が納められていて。勅語も、整列して先生が読み上げるのを聞いたけどさ。いや、半纏^{はんてん}を着てね。前のやつ半纏から綿^{わた}が飛び出しているのが目についてさ、どうしても気になって、綿抜いていたら、まあ怒られたな。みんな農家だつたで、米に困つてなかつただけで、弁当に白米が入っていると怒られるのよ。質素儉約^{しつそけんやく}、ぜいたくは敵だつて。先生にフタを開いて見せないといけないんだけど、お袋が賢くてね。ご飯の上から菜^{さい}つ葉^えを敷いて隠してくれたりね。

戦争はいけない

中学では、戦争の練習もさせられたね。軍事教練。松本五十連隊からムラカミ将校つていう人がきて、おつかなくてね。刀をさげていて、「貴

様たちは！」と怒鳴るのよ。

男子は鉄砲を撃つ練習。音だけ鳴る銃が学校にあつて、藁人形^{わらでこ}に向かつて鉄砲を撃つて、そのあとは鉄砲の先端に槍をつけて、藁人形を刺すの。失敗すれば怒られるし。今考えればよく正気でやつてたよ。今の生活は天国だ。戦争は本当にいけない。

※1 兵器の購入・保管等を行う機関。岡谷には東京兵器補給廠^{きぐく}岡谷出張所があり、主として通信機材等を戦地に発送した(参考…岡谷市史)。

※2 子どもが使うような小さいカゴ。

※3 当時長野県では満州への開拓団の送出に力を入れており、茅野市域からも約350名が満州に渡り、帰還できた者は半数に満たなかった。青少年義勇軍は成人移民より経費がかからないなどの理由で全国的に募集され、茅野市域からも満14歳の少年を中心に135名が満州へ渡つた(参考…茅野市史)。

※ 表紙の写真は茅野市運動公園にある原爆の火・平和の塔。

Piece of Peace

太平洋戦争終結から 80 年を迎えた今年。

改めて平和の大切さ、命の尊さを見つめ直す機会として「平和」をテーマにした作品展を開催します。

展示期間 令和 7 年 8 月 26 日(火) 正午～9 月 5 日(金) 午後 1 時の間の開庁時間

会場 茅野市役所 1 階ロビー

グランドピアノ リニューアル

▼合唱 コールフェミニーレ



▲親子でヴァイオリン演奏



▲50 名以上がピアノを奏でる

ありがとう、「これからもよろしく

中央公民館には、公民館としては珍しく、グランドピアノがあります。このピアノは、1993 年、当時の市内で活動していた音楽団体等の強い要望により導入したものです。30 年以上、茅野市の音楽活動を支えてきたピアノですが、不具合も目立つようになり、今年 2 月にオーバーホールを行いました。

リニューアルしたピアノの完成記念コンサートを企画したところ、普段このピアノで練習を行っている団体を中心に、ピアノや音楽を愛好する大勢の方から応募をいただきました。5 月 24・25 日の 2 日間で、総演奏時間 9 時間を超えるリレーコンサートを実施することができました。

ピアノ演奏はもちろん、合唱、弦楽、コカリナ等の団体による演奏のほか、3 歳、4 歳の女の子がピアノを弾いたり、歌を披露したり、9 歳の男の子がピアノにヴァイオリンにと活躍し、様々なジャンルの音楽を楽しむ機会となりました。

このピアノが、これから茅野市の音楽文化の発展を支えていくことを願っています。

中央公民館等
施設の使用説明会
を開催します

中央公民館・



各地区コミュニティセンター・学校開放施設の使用
方法等について、説明
会を開催します。

日程 7 月 28 日(月)

午後 2 時～

午後 7 時～

7 月 29 日(火)

午前 10 時～

午後 2 時～

4 回のうち、いずれ
か都合の良い日
にご出席ください

会場 茅野市中央公民館

2 階 学習室

内容 施設の使用方法

施設使用料金

支払い方法

予約方法について
等

第48回茅野どんばん ～8月9日(土)開催～ 笑顔咲かせる祭りの広場! 想いつなげる茅野どんばん!!

茅野どんばん踊り公開講習のご案内

8月9日は茅野どんばん! 皆で踊ろう!

日時 8月7日(木) 午後7時30分～
会場 茅野市中央公民館 2階 講堂
費用 無料
持ち物 上履き・おんべ・タオル等
その他 申込みは不要です。当日会場へお越しください。
 どなたでも歓迎です。
 どんばん当日は、とびこみ連があります。



踊りの見本動画を
YouTubeで紹介しています。
こちらをご覧ください。



茅野どんばん どんばんかえしばやし ビバドンバン



第51回 茅野市芸術祭 作品展示出品者募集

作品展示要項

展示期間 10月25日(土)～10月29日(水)
 午前9時～午後5時(初日のみ午前10時)

会場 茅野市中央公民館

出展資格 茅野市内在住・在勤・在学者・社会教育関係団体
 加入者および高齢者大学・公民館講座受講者

出展申込 所定の用紙に記入のうえ、個人の方は直接、団体
 で申請する場合は責任者が取りまとめて、中央公
 民館へ申し込んでください。

締切 9月5日(金)

搬入 10月22・23日(水・木)の指定された時間

搬出 10月30日(木)の指定された時間

作品規格(厳守)

作品の種類	規 格
日本画・版画・俳画 ちぎり絵・染色・ 押し絵・切り絵等	30号以内で額装
洋 画	50号以内で額装
パッチワーク等	30号に相当する 大きさまで
書 道	額装または仮表装以上
写 真	4ツ切り以上で額装ま たはパネル、組写真は 3枚まで
短歌・俳句・俚謡	作品は短冊で、短冊掛 けを使用
その他	小さな作品は、ケースや 箱等に入れてください。

ロビー企画展

趣墨会

水墨画展

会場 茅野市中央公民館 1階ロビー
開館時間 月～土曜日 午前9時～午後9時30分
 日曜日 午前9時～午後5時30分(第3日曜日休館)

期 間 8月22日(金) 正午～8月29日(金) 午後4時
内 容 水墨画 30点を展示
主 催 趣墨会

公民館講座受講生募集

(キャンセルする場合はできるだけ早めに茅野市中央公民館担当までお申し出ください)

※ 講座を受講するにあたり、手話通訳などを希望される方は申込時にお知らせください。

地域づくり講座

空き家はやっぱり みんなの課題？

「空き家って、地域の課題というけど、実際は近所に住んでる人だけの問題じゃない？」
なんて思ったことはありませんか？ そこで、3人のパネリストで対談し、市内の空き家の状況・課題・対策等を深掘りし、皆でできることを考えます。

日 時 8月27日(水) 午後7時～8時30分

会 場 茅野市中央公民館 2階 学習室

パネリスト 青井 慎吾 先生
(山のふもとの司法書士・行政書士事務所)
茅野市都市計画課職員
茅野市中央公民館主事

受講資格 茅野市内の空き家問題に関心のある方、市内に空き家のある方、
区行政や公民館活動に関わりのある方

受講料 無料 **定 員** 40名

その他 講座では個別の相談はお受けできませんが、申し出いただければ
相談窓口をご案内します。また、録音・録画はご遠慮ください。

受付開始

7月30日(水)
午前10時～
(電話または
インターネット先着順)



▲ 申込フォーム

初心者も楽しめる マクラメ編み講座

マクラメとは、細紐などを用いた手編みの技法の一種です。

意外とシンプルで自由楽しめるマクラメ編みで、**スマホショルダー**を作ってみませんか？
編み方を身に付けてから制作に入ります。

初心者の方もお気軽にご参加ください。

日 時 9月7日・14日・23日・28日
(全4回 * 3回目のみ火曜日 他は日曜日)
午前9時30分～11時30分

会 場 茅野市中央公民館 1階 第1会議室

講 師 林 美里 先生

受講料 4,200円(受講料1,000円、材料費3,200円)

定 員 10名 **受講資格** 市内在住・在学・在勤者

持ち物 メジャー、布可の接着剤(瞬間接着剤を推奨)、はさみ

その他 準備の都合上、完成品(イメージ写真)の色と大きさ
で材料を用意させていただきます。
紐はロールでお渡しいたします。余った紐でご自宅でも
楽しめます。

受付開始

8月4日(月)
午前10時～
(電話で先着順)



お問い合わせ・申込先 茅野市中央公民館 ☎ 72-3266 (窓口受付は行いません)

地域づくり講座

～学習的手法による地域づくり～

日 時	9月12日(金) 午後2時～5時 9月13日(土) 午前9時30分～午後0時30分 (両日とも同じ内容)
会 場	茅野市役所 8階 大ホール (茅野市役所正面玄関から入り、エレベーターをお使いください)
講 師	白戸 洋 先生 (松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授)
内 容	・講演会「学習的手法による地域づくり」(90分) ・グループディスカッション(90分) ※講演会のみ参加も可能です
対 象	公民館・区(自治会)関係者、市町村職員、地域課題に興味のある方
受 講 料	無料
定 員	各回 100名程度
申 込 先	茅野市中央公民館 (☎0266-72-3266 平日午前9時～5時受付可)
申込期間	8月4日(月)～9月5日(金)
申込方法	電話・インターネットにて受付



▲白戸洋先生



▲申込フォーム

～この講座の企画の背景～

信州の農業や村づくりにご尽力された、故・玉井 袈裟男^{たまい けさお}先生の創立された「風土舎」が、弟子である白戸先生たちにより、30年の歳月を超えて復活しました。これは「地域、地域」と声高になった時代の要請ではないかと考えます。そして、地域でどう生きていくかを考え、実践することこそが、結果的に地域づくりに繋がっていきます。

一方、区や公民館などの役員は、正直面倒くさいしやりたくない…閉塞した気持ちを抱く方が少なくないのではないのでしょうか。今回の講座では、地域の悪い所を見つめ、それらを少しずつ変え、地域の再生ではなく、地域を創り直すきっかけや手法を提供できたらと思います。

諏訪ことば知ってる？ 使う？
アンケート実施中



久しぶり
はあるかぶりだね
(久しぶりだね)



アンケート回答134名中
知っている・使う人は92名
でした。

戸田さん。
M君と
はあるかぶり
にいきあえて
良かったな。

はあるかぶり

矢口はあるかぶり！
諏訪ことば^{すわ}

④

協力：八ヶ岳総合博物館、
国立国語研究所
「市民科学」プロジェクト